

MySQL 5.5.38 リリースノート（日本語翻訳）

修正されたバグ

- **InnoDB**: データ挿入のたびに、システムフィールドのためのメモリを割り当てるための `memset` が 3 度呼び出されていた。CPU の使用率を減らすために、3 つの `memset` 呼び出しが 1 つの呼び出しに結合されるようになった (Bug #17858679、Bug #71014)。
- **InnoDB**: 5.6.10 から MySQL 5.6.18 まで (5.6.18 も含む) の MySQL バージョンにアップグレードすると、**InnoDB** はサーバの起動時に古い全文検索の補助テーブルの名前を変更しようとして、アサーション違反になっていた (Bug #18634201、Bug #72079)。
- **レプリケーション**: トランザクショナルストレージエンジンを採用しているテーブルで使用した場合、`TRUNCATE TABLE` が失敗してもバイナリログに書き込まれ、スレーブ上で再実行されていた。このため、スレーブで削除されたデータをマスタが保持していた場合、矛盾が生じる可能性があった。

現在、このような場合、`TRUNCATE TABLE` は正常に実行された場合にのみログに記録される (Bug #17942050、Bug #71070)。

- 特定の `INFORMATION_SCHEMA` クエリでサーバが終了する可能性があった (Bug #18319790)。
- プリフィックスまたは文字列カラムのインデックスの場合、不適切な文字カウントにより、バイナリデータのカラムへの割り当てに対しインデックスの破損が生じる可能性があった (Bug #18359924)。
- Solaris 固有のスクリプトが非 Solaris パッケージに含まれ、インストールされていた (Bug #18305641)。
- `UNION` を含む `EXISTS` サブクエリを持つクエリで `EXPLAIN` を実行すると、サーバが終了する可能性があった。サブクエリの `UNION` でプリペアド `EXPLAIN` を複数実行すると、サーバが終了する可能性があった (Bug #18167356)。
- `AUTO_INCREMENT` カラムを持つ `ARCHIVE` テーブルで相関関係があるサブクエリを実行すると、サーバがハングしていた (Bug #18065452)。

- クライアントライブラリにおいて、パケットバッファメモリの再割り当てが発生した場合、応答メッセージに間違ったクライアントエラー番号をマッピングすることにより、クライアントが終了する可能性があった (Bug #18080920)。
- 無効な接続ハンドラ引数で `mysql_get_server_version()` を呼び出すと、クライアントが終了していた。現在は、0 を返し、`CR COMMANDS OUT OF SYNC` エラーをレポートする (Bug #18053212)。
- Windows において、`mysql_init()` なしで `mysql_thread_init()` を呼び出すと、クライアントが終了していた。現在では、`mysql_library_init()` でクライアントライブラリが初期化される前に `mysql_thread_init()` を呼び出すことはエラーであるため、ゼロ以外の結果を返すようになった (Bug #17514920)。
- `INTERFACE_LINK_LIBRARIES` ポリシーについて、`CMake` が有用でない警告を生成していた (Bug #71089、Bug #17905155、Bug #17894997)。
- 行区切り文字がないときにインポートエラーが発生した場合、`LOAD DATA LOCAL INFILE` がすべての CPU を使用する可能性があった (Bug #51840、Bug #11759519)。
- 以下の形式のステートメントの場合、表示幅が最大許容値の 255 を超える 3000 であるデータタイプ `BIGINT` のフィールドを持つテーブルを作成するため、行ベースのレプリケーションが中断していた。

```
CREATE TABLE t1 AS SELECT REPEAT('A',1000) DIV 1 AS a;
```

(Bug #71179、Bug #17994219)

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。